

日本 N G O 連携無償資金協力 中間報告書

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	イースタン州コウ・イースト郡にて、MDG5（妊産婦の健康の改善）が達成される。
(2) 事業内容	2012 年（平成 24 年）12 月 18 日～2013 年（平成 25 年）6 月 17 日までに実施された事業内容と経過は以下の通り。 全体 1. RH サービスの改善 イ) <u>CHPS（地域保健師による基礎的保健医療サービス）診療所 3 か所の建設</u> センポア、シェウォホーデン、アグアジ・クロムの 3 つのコミュニティにおいて CHPS 診療所の建設を開始し、9 月中旬をまでに完成する予定である。これらの診療所が稼働することで、住民が基礎的保健医療サービスをより身近で受けられるようになる。詳細は、別添 3. 建設進捗報告書（英文）参照。 ロ) <u>CHPS 診療所の医療機器設置</u> CHPS 診療所に必要な医療機器の調達にむけて関係者との調整・協議を行い、必要な準備を開始した。CHPS 診療所の完成時期に合わせて各診療所に設置できるよう進めている。 ハ) <u>RH センターの追加工事</u> コトソの RH センターの追加工事は、6 月後半から 7 月に実施の予定である。 ニ) <u>RH センター経営自立発展計画の改定</u> 第 1 フェーズで策定した経営自立発展計画に関して、センター開始から 1 年弱の利用状況を踏まえた関係機関による見直しを 10 月に行う計画である。 ホ) <u>医療従事者の研修・能力強化</u> RH センターのスタッフに対して、ニーズの高い超音波診断技術に焦点を絞り、3 月に集中的な研修を実施し、サービスの質の向上を図った（別添 4. RH センタースタッフ再研修レポート（英文）参照）。各診療所に配置される地域保健師（CH0）を対象とした研修は、州・郡保健局及び PPAG と共同で 10 月までに実施する。また、RH センターのサービスの質の向上のための出口調査と覆面調査の準備（質問票の策定等）を行った。実施は 6 月末～9 月にかけて予定しており、調査結果に基づくスタッフへの指導も行う。

へ) RH センターと CHPS 診療所を拠点とした巡回診療サービスの開始
 コトソ RH センターでの保健医療サービスの提供に加えて、同センターを拠点とした巡回診療を継続的に実施した。RH センターの来訪者数・サービス提供数は増加している。

また、巡回診療や搬送システム強化のため、各診療所 1 台のバイクを配備し、また、対岸地区への移動のためにボート (1 台) を、CHPS 診療所完成に合わせて利用できるよう手配している。

2. 住民啓発活動

ト) BCC (行動変容のためのコミュニケーション) 戦略の実施・草の根での RH 啓発活動の強化

第 1 フェーズで作成した BCC 戦略に基づき、家族計画実行率の上昇や安全な妊娠・出産の推進を目的とした、草の根での RH 啓発活動を下記の通り実施した。

① RH センターのあるコトソおよび近隣地区から 42 名の地域住民を選び、3 月に 1 回目の研修を実施して地域ボランティアとして養成した (別添 5. 地域ボランティア養成研修レポート (英文) 参照)。2 回目の養成研修は 3 か所の CHPS 建設予定地から 42 名を選抜し、6 月下旬に実施予定である。

ボランティアの役割は、家庭訪問やグループディスカッションを通じた教育活動、カウンセリング、避妊具の配布などである。1 回目の研修結果も踏まえ、現在、地域ボランティアガイド案の作成に着手しており、9 月下旬にかけて完成させる予定。

② 本報告期間には、ボランティア活動に活用する啓発教材 (パンフレット) とボランティア用のキット (活動時に着用する T シャツやフリップチャート、記録帳など) の制作に向けた準備を進めた。

③ 家族計画および母子保健に関するフィルム上映会を期間中に 7 つのコミュニティ (Kotoso, Ahinase, Toklom, Bonkrase, Asempaneye, Amegalolo, Hyewohoden) を対象に 6 回実施し、1,862 名が参加した。

④ 当団体の専門職員を、2 回派遣し、下記の活動を行った。
 (1) 現地での取材を通して、地方劇団によるコミュニティドラマとそれに連動するラジオドラマの台本を制作。台本のテーマは、地域住民が抱える 3 つの課題——(a) 保健施設へのアクセスが困難である (距離が遠い、交通手段が少ない等)、(b) 家族計画に関する迷信や誤解がある、(c) パートナーからの協力が欠如ないし不足している、に関する実話を再現したものであり、住民の共感や行動変容を促すことを目指している。

(2) プロジェクト地区内の既存の 12 の地方劇団の代表に対して、制作した台本の説明会を実施。そのうち 5 つの劇団を選定し、6 月下旬に台本に基づいた指導者研修の実施が予定されている。

	(3) コミュニティドラマに連動したラジオドラマの制作・番組放送は 8 月～9 月にかけて行う計画であり、本報告期間はそれに向けてプロジェクト地区内で受信可能な FM ラジオ局や各コミュニティの有線放送の状況、制作業者の調査などの準備を実施した。 (4) PPAG との共同作業でプロジェクトのロゴマークを制作しており、完成後は、プロジェクトで制作する印刷物・啓発教材車両等に貼付して活用する。このロゴマークは、コトソ近隣の小学校児童が描いた太陽と母親の笑顔をモチーフにデザインされた、住民がより身近にプロジェクトを感じられるようなものであり、プロジェクトの目的や活動内容を効果的かつ統一的に周知するために用いる（別添 6. IEC・BCG 専門家出張報告書(英文)）。 3. モニタリング・マネジメント・自立発展性 チ) <u>コミュニティ参加型マネジメントシステムの構築</u> 4 月よりコトソ RH センター運営委員会の定期会合を開始した。期間中に討議された内容は、サービスの状況や清潔な水の安定供給についてなどで、地域住民代表も加わった参加型のセンター運営に向けての一歩を踏み出した。（別添 7. RH センター運営委員会議事録） リ) <u>モニタリング・評価</u> 2013 年 1 月 24 日～25 日に、プロジェクト運営委員会に先立ち、コウ・イースト郡保健局長、PPAG、ジョイセフの関係者が集まり、2 年次の活動計画の詳細について確認を行った。また、この結果を踏まえて、第 3 回プロジェクト運営委員会を 3 月 1 日にイースタン州保健局で開催し、ジョイセフ、GHS、PPAG、の実施三機関が、それまでの活動成果と今期の活動計画を協議し、合意した。（別添 8. 第 3 回プロジェクト運営委員会議事録案）
(3) 達成された効果	1. RH サービスへのアクセスの改善 2013 年 1 月～5 月までの間に、コトソ RH センターの一般来院者数は 1 月から 3 月の平均が約 200 人であったのが、4 月には、1 か月で 508 名に増加した。サービス指標では、妊産婦健診の受診者数は RH センター開設直後の 1～2 名から 4 月の報告書では 37 名に増加している。5 歳以下の乳幼児を対象とする地域で実施する子ども健診日には、1 月～3 月の平均が 291 であったのに対し、4 月・5 月の 2 か月の平均は 684 に増加した。身長・体重測定、予防接種に加え、母親対象に栄養相談、家族計画相談がなされた。 2. RH に関する啓発活動 3 月に養成された地域ボランティアによる個別相談、グループ相談活動を通じて、4 月・5 月で計 1,523 人に対し妊娠・出産に関する情報と家族計画に関する情報を提供した。（1 月から 3 月の合計は、1,158 人。）また、プロジェクト地区内 6 箇所で、家族計画に関するフィルム上映会を行い、1,862 人の住民を対象に、上映

	会後の健康に関する講話や質疑応答を行った。養成した地域ボランティアの活動用にポスター70枚、啓発用パンフレット65部、HIV/エイズ予防のフリップチャート9部が配布された。
(4) 今後の見通し	第2フェーズの主要な活動は、CHPS診療所建設と機材供与、各種住民啓発活動の展開、搬送体制・巡回診療の強化である。CHPS診療所3箇所の建設は、6月現在急ピッチですすめられており9月中旬までの完成が見込まれている。また、住民啓発活動は、地域ボランティアによる活動やフィルム上映が始まり、コミュニティドラマやラジオ放映の準備が進められており、今期終了時には、対象地域でのRHサービスのさらなる利用増加も見込まれ、RH指標の改善に向けた成果が期待できる。